岐阜大学図書館報
ISSN 0915－8960
Zun 寸 dō 胴
THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN
第53号 2015. 10
図書館ホームページ URL: http://www1. gifu-u.ac.jp/~gulib/

目　次

高等教育研究、アカデミック・コア、大学アーカイブズ …… 1
寄贈図書一覧（平成27年１月～６月）…… 5
国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの開始について …… 7
お知らせ …… 8

高等教育研究、アカデミック・コア、大学アーカイブズ

廣　内　大　輔

高等教育研究とは何か

高等教育研究。この言葉を聞いてどのような学問分野だと想像されようか。高等な教育研究でも、高等学校の在り方を模索する分野でもない。高等教育とは、高校を卒業した後に受ける教育のことで、端的には大学教育のこと、大学のことを研究する学問と言ってよい。専門学校や高等専門学校あるいは文部科学省以外の省庁が管轄する大学校を扱う論者もいるが、一般的には大学に着目して研究する。

高等教育研究の位置づけをもっと知るために、これを学ぶことのできる課程がどのような部局に置かれているかを見てみよう。大学院レベルでは、東京大学（教育学研究科大学経営・政策コース）、広島大学（教育学研究科高等教育開発専攻）、名古屋大学（教育発達科学研究科高等教育学講座）、京都大学（教育学研究科高等教育開発論講座）が、教育学系の研究科にその課程を置いている。また、桜美林大学（大学アドミニストレーション研究科）のようにそれを単独で研究科とした大学院も存在する。学部レベルで高等教育について教えている課程は少なく、管見の及ぶところでは、大正大学が複数の高等教育研究者を擁し、大学職員などの育成にあたっている。そしてこのコースは人間学部（教育・学校経営マネジメントコース）に置かれている。

今しばらく高等教育研究の説明にお付き合い願いたい。大学を研究するにしても、その営みはさらに細かな分野に分かれており、実に数多くのアプローチの仕方が存在する。容易に思いつくものとしては教育方法や学習方法だろう。あるいは教育の質に関するものだろうか。これらには、例えば、アクティブラーニングやルーブリック、ポートフォリオ、GPAにナンバリング、IR、認証評価、質保証といったものが該当する。この他にも、海外の大学事情を調査する比較高等教育論、親の職業や収入といった

周囲の環境が子の学歴や収入にどのような影響を及ぼすかを考察する教育社会学的アプローチ、国や地方自治体との関係から大学を捉える教育行政学としての高等教育論、日本はもちろん中世ヨーロッパにまで時代を遡る大学史など、高等教育研究者の数だけ高等教育研究の定義と戦術が存在すると言っても過言ではない。

高等教育研究者が、大学に勤務することの“美味しさ”は、何よりも、勤務校が抱える当座の課題にコミットすることで、日々の業務がまさにフィールドワークそのものとなりうることである。学内で開かれる各種の会議に出席することは、その意味で大変興味深く、大学内部で誰がどのような議論を展開し、また大学の外にあるどのような事情を意識しながら意思決定に至るのかを間近で見られるのは、本当に幸せなことだと思う。

ところで、我々高等教育屋（私はこの言い方をよく使う）は日々、どのような仕事をしているのか。大学によって異なるが、私について言えば、学内の様々な先生方やいろいろな部署の職員の方々とのメールや電話や直接会っての連絡・相談・調整業務が中心となる。この他、各種の会議、打合せが入る。特に最近では、本年６月に図書館１階南側にオープンした「アカデミック・コア」の運営に関する折衝が増えつつある。それでは、以下、アカデミック・コアについてその設備と機能をご紹介しよう。

アカデミック・コア

高等教育屋としての私が目下力を入れて取り組んでいる仕事の一つが、本年６月に図書館１階にオープンしたアカデミック・コアの運営である。このアカデミック・コア開設にあたり図書館からは、空間の提供のみならず、その運営にも図書館職員の方々が常に協力して下さっている。

アカデミック･コアは､大学業界では一般に「ラーニングコモンズ」と呼ばれるものにほぼ相当する。つまり、学生同士が、正規の授業時間以外の時間を利用して自主的に学びを深めていくための場所と答えることができる。ここで言う「学び」とは、授業の内容に関するものでもいいし、授業とは別に自らの内から沸き起こる興味関心でも構わない。個人的には後者を強く期待しており、コアを単に授業の予習、復習、課題をやるためだけの自習室とは捉えて欲しくないという思いがある。授業の予習、復習、課題といった、言ってしまえば大学側に定められた枠の内での勉強に留まることなく、授業という枠組みにとらわれることなく、自由に学究活動を展開して欲しいと願っている。

これらを実現するために、オープンにあたってはまずハードにあたる設備を整えた。自由に移動可能なテーブルや椅子､液晶プロジェクターや電子黒板、大小のホワイトボード、個室型のグループ学習室がそれに該当する。今後、力を入れていきたいのはソフトにあたる部分である。これは、学生同士、あるいは学生と教職員といった人のつながりを意識した、相互に刺激し合う学びの風土づくりを指している。現在のところ専属職員２名と学生スタッフ７名が、魅力的なコアの雰囲気づくりに日夜奮闘してくれている。今後は彼らによる学び支援活動を展開していきたいと考えている。この学び支援活動とは、例えば、自主ゼミの開き方、自主的な探求活動の進め方についての助言などがある。この他、基礎的な英語や数学の復習を支援する体制も構築し、岐阜大学における「学び支援センター」としての機能を備えた空間を目指したい。

ここで皆様に、ぜひこのアカデミック・コアで自主的な研究会やセミナーなどのイベントを企画・実

施して下さい、ということをお伝え、お願いしておきたい。アカデミックな内容のものであれば、どのようなものでも受け付けたいと考えている。例えば学生の方が、「私、レポート書くのが得意ですので、『レポートの書き方講習会』をやります！」、あるいは英語の得意な学生が、「『英語やり直し講座』を開催したいです！」などと申し出てくれたりしたら、願ってもない喜びである。上で触れた自主ゼミにしても、なかなか学生たちが手をあげて組織するのは最初は難しいかもしれず、まずはどなたか先生方がお手本として開いて頂ければ大変ありがたい。職員の方にも、自主的なSD等の勉強会を学生も交えて実施するなどの使い方が考えられるがいかがだろうか。アカデミック・コアは、そこを利用する人同士が、互いに刺激しあい、共通の関心に気づいて繋がり合うことで、さらに学びの幅が広がり、促進されることを狙いとしているため、座席の予約や貸し切りでの利用を意図的に受け付けていない。よって、そうした企画はおのずとすべての構成員に開かれているものとなるが、そうした前提での皆様からの企画の持ち込みをお待ちしている。

大学アーカイブズ機能が欲しい

さて、もう少し図書館に関係するお話をしなければならない。上に記したとおり、一見捉えどころがないような高等教育研究や私の業務の中でも、私の個人的な関心は実は歴史的なところにある。歴史というほどの大げさなものではないかもしれない。ちょっと前のことが知りたいのである。これは研究上の関心であるばかりでなく、アカデミック・コアの運営など、現在の本学での業務にも通じるものである。

このような研究を進めていく時、私がぜひとも欲しいといつも思うものが大学アーカイブズである。大学アーカイブズとは、それぞれの大学に置かれる「歴史資料館」あるいは「文書館」とでも言おうか、大学運営上で作成された文書など価値ある史料を蒐集･保存することを担う施設のことである。大学アーカイブズを備える大学は近年増えつつある。国立では、東京大学、東北大学、九州大学、大阪大学、広島大学などがすぐに思いつく。また、全国大学史資料協議会という組織もできており、大学史を編むのに必要な資料の蒐集、保存、公開が大学として組織的に取り組まれるようになりつつある。これは単なる懐古趣味ではなく、質保証の観点からも、Institutional Research（IR）の観点からも、そして初年次教育の観点からも近年注目されている。

実際問題として、本学が他の国立大学のように大学アーカイブズを単独の施設として設けることは難しいと思われるが、そうした機能を何とか図書館の中で発展させてもらうことはできないだろうか。私は今、岐阜大学の中にどれだけの史料が残されているかを把握していない。学内のどこかには既にきちんと整理されているのかもしれない。キャンパスが移転、統合された際、散逸してはいないかという不安もよぎる。一般に大学に関する史料と言えば、評議会や教授会の議事録など、いわゆる公文書という言葉が似合うものを想像しがちであるが、仮に図書館内に「岐阜大学アーカイブズコーナー」が設置された暁には、これらに限らず、例えば、学生の下宿屋さんの案内（昔の学生の暮らしぶりが分かる）、学生運動華やかりし頃のビラ、ペンキで塗られたヘルメット（他大学には保存されていた！）、キャンパス内各所の写真（移転や建替えがあるとすぐに分からなくなることの一つ）、大学祭のパンフレット、教職員の給料袋、キャンパス近隣の飲食店の広告（学生は何を食べ、どんな酒をいくらで飲んでいたの

か？）、学生のファッションの変遷が分かる写真（リクルートスーツがえらく暗い色一色になったのは今世紀に入ってからだったか？）、昔の入学式の式次第など（大学の入学式・卒業式に親が付き添って来ることは既に半世紀前にはあったらしい）、学生が書きとった授業のノート（昔の学生は本当に勉強していたのだろうか？）など、構成員の文化や風俗を伝える史料の充実を夢見る。

最後に、もし大学アーカイブズ機能が発達していれば、どのような研究がやり易くなるのかの事例として、最近私が実施した、ちょっと昔の史料を用いた研究を紹介する。それは入学式および卒業式での学長の式辞をたくさん集めて、そこに書かれている内容を分析したものである。調査対象校はあいにく本学ではなく、別のとある大学を選んだが、その大学には戦後直後から現在に至るまでの60年以上にわたる式辞が製本され、図書館で公開されていた。その大学の式辞はこれまでにざっと130本が作られていることになるが、その大学には110本近くが綺麗に保存されており、容易に閲覧することができた。

研究の結果、学長の式辞にはそれぞれの学長の大学教育観が現れていた。例えば、最近話題のアクティブラーニングについては、この言葉が直接登場することはないものの、昭和40年代頃から同じ趣旨のことが複数の学長によって繰り返し語られていたし、また教養教育の意義を説くことも同様であった。この研究成果は本年６月に開かれた日本高等教育学会で発表したところであるが、聴衆からは思いのほか良い反応を得ることができた。

以上は式辞研究という一例に過ぎないが、図書館にそのような機能が強化されれば、もっともっと大学の歴史を知ることできる。それはもっともっと大学の今を議論することに資すると思えるのであるが、これは私の夢物語りだろうか。

（ひろうち　だいすけ：教育推進・学生支援機構准教授）

寄贈図書一覧（平成27年１月～６月）

平成27年１月～６月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。引き続き、ご寄贈をお願いいたします。

●山田敏弘　（教育学部）

・岐阜県方言辞典／山田敏弘編　４：オノマトペ、幼児語、あいさつ・定式表現、比喩表現

・岐阜県方言辞典／山田敏弘編　５：文法

【本館シラバスコーナー　818.53 ‖ Gih】

～内容紹介～

方言は、多様性の最たるもの。本書は、岐阜県内の方言を網羅的に集めた『岐阜県方言辞典』の番外編で、形式として特徴ある表現（1970形式＋969形式）を採録しています。手に取って、岐阜県人の豊かな発想に触れてください。

●竹内章郎　（地域科学部）

・なぜ，市場化に違和感をいだくのか？：市場の「内」と「外」のせめぎ合い／高橋弦、竹内章郎編著

【本館シラバスコーナー　332.06 ‖ Tak】

●吉澤寛之　（教育学研究科）

・ゆがんだ認知が生み出す反社会的行動：その予防と改善の可能性／吉澤寛之［ほか］編著

【本館シラバスコーナー　368.71 ‖ Yug】

～内容紹介～

攻撃行動、いじめ、少年非行などの反社会的行動をおこなう者の認知のゆがみに焦点を当て、国内外の研究者が社会・教育・発達といった心理学領域に脳科学を含めた最新の知見と、予防・改善の実践とを紹介した本です。

●山縣裕　（工学部）

・コンピュータ・シミュレーションによるダイカスト金型技術の可視化／山縣裕著

【本館３階　566.18 ‖ Yam】

●長谷川泰道　（名誉教授）

・Control problems of discrete-time dynamical systems／Yasumichi Hasegawa

【本館洋書　501.9 ‖ Has】

●合田昭二　（名誉教授）

・工業の地方分散と地域経済社会：奥能登織布業の展開／青野壽彦、合田昭二編著

【本館３階　349 ‖ Kog】

●益川浩一　（地域協学センター）

・現代社会教育・生涯学習の諸相／益川浩一著　第１巻：歴史編

【本館シラバスコーナー　379 ‖ Mas】

～内容紹介～

社会教育・生涯学習の諸相を、歴史・現代・実践の３つの側面から解き明かすことを目指しています。「歴史編」では、各々の歴史と固有の条件に基づいて個性的・創造的に成立・展開してきた愛知・岐阜の戦後初期公民館の実像を描き、公民館活動を通して自己を形成していく地域住民の足跡を検証しています。

●宇佐美広介　（工学部）

・実例詳説線形代数／宇佐美広介［ほか］共著

【本館シラバスコーナー　411.3 ‖ Zit】

～内容紹介～

本書は、新カリキュラムを高校で履修してきた2015年４月以降の入学者を対象とする線形代数学の入門書である。書名にあるように、実例を多く紹介して「倣うと同時に慣れよ！」という方針で執筆されている。

●原山美知子　（工学部）

・インターネット工学／原山美知子著

【本館シラバスコーナー　547.48 ‖ Har】

～内容紹介～

本書はコンピュータ通信の入門書です。多くの技術用語を早く理解できるように構成や紙面を工夫しています。また、理解を深めるためインターネット関連組織や役立つサイト、基本的なツールやコマンドに触れています。

●小木曽加奈子　（医学部）

・高齢者ケアの質を高めるICFを活かしたケアプロセス／小木曽加奈子編著

【医図３階　369.26 ‖ Kor】

～内容紹介～

高齢者を取り巻く社会環境、ケアの概念、ICFの概念と活用方法を紹介しています。また、病院・在宅・施設という３つの療養の場で、アセスメントの方法や必要なケアが異なることを理解できるよう考案した本です。

●山本眞由美　（保健管理センター）

・大学生の健康ナビ：キャンパスライフの健康管理／岐阜県大学保健管理研究会企画　2015

【本館シラバスコーナー　498.3 ‖ Dai】

【医図３階　498.3 ‖ Dai】

※同一図書を２冊寄贈していただいております。

～内容紹介～

岐阜県大学保健管理研究会（岐阜県下の高等教育機関が参加）が発案し、大学生のための健康の話題を、各分野の専門家が執筆した。大学生の健康啓発本として、また、保護者や教職員の参考本として必携。

●後藤信義　（教育学部）

・若手教師のための英語授業70のツボ／後藤信義著

【本館３階　375.893 ‖ Got】

※同一図書を２冊寄贈していただいております。

～内容紹介～

小・中学校で、楽しく、学力がつくコミュニケーション活動中心の英語授業を構築するための理論と実践を紹介している。英語が専門でない人にも、分かりやすく改善の視点や具体例を示しているので、授業の参考にして欲しい。

※内容紹介文は寄贈者による。

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの開始について

岐阜大学図書館では、平成27年４月１日より国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを開始いたしました。今回は、この国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについてご案内いたします。

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスとは

国立国会図書館でデジタル化された資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、国立国会図書館の承認を受けた公共図書館や大学図書館などで閲覧できるようになるサービスです。

国立国会図書館では平成26年からこのサービスを開始しています。

利用対象者

岐阜大学に所属している利用者に限られます。

対象資料

国立国会図書館でデジタル化された資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料が対象となります。

国立国会図書館ホームページでも対象資料を確認することができます。

利用方法

岐阜大学図書館本館２階にある専用端末からご利用いただけます。

端末の近くに「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用申込書」を用意しておりますので必要事項をご記入の上、２階受付カウンターまでお越しください。

注意点

利用可能日時は、平日の９時から17時までとなっております。

専用端末は１台となっておりますので、長時間の利用はご遠慮ください。

デジタルデータの保存はできませんのでご了承ください。

複写をご希望の場合は２階カウンターまでお問い合わせください。

お　知　ら　せ

グループ学習室の利用について

図書館本館１階のグループ学習室は、これまで２階カウンターで利用手続きの受付を行っておりましたが、６月１日（月）のアカデミック・コア新設に伴い、グループ学習室の利用手続きの受付等についてはアカデミック・コア受付にて行うことになりました。

今後、グループ学習室の利用等に関する問い合わせにつきましては、アカデミック・コア受付までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

留学支援コーナーの新設について

図書館本館２階に、留学支援コーナーが新設されました。

従来の留学生コーナーは､岐阜大学に留学してきた留学生を対象としておりましたが､留学支援コーナーでは、海外留学に興味がある日本人学生を対象としております。

現在配架されている図書だけではなく、これからもコーナーを充実させていく予定ですので、留学に興味のある方は是非ご利用ください。

THE WALL STREET JOURNAL 購読中止について

これまで図書館では英字新聞として The Japan Times, International New York Times, そしてThe Wall Street Journal を提供してまいりました。

しかしながら、取扱店による配達が中止となりましたので、９月11日（金）をもって The Wall Street Journal の購読を中止することとなりました。

ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承くださいますようお願いいたします。

岐阜大学図書館報「寸胴」第53号　2015年10月31日
編集・発行　岐阜大学図書館（情報部学術情報課）
〒501-1193　岐阜市柳戸１番１　☎058-293-2184